



1 生活科授業づくりのポイント

小学校学習指導要領解説生活編（平成20年8月）では、「内容」及び「内容の取り扱いの改善」において「気付きの明確化と気付きの質を高める学習活動の充実」「伝え合い交流する活動の充実」「自然の不思議さや面白さを実感する指導の充実」「安全教育や生命に関する教育の充実」「幼児教育及び他教科との接続」の5点について主として改善が図られています。

ここでは、小学校生活科の授業づくりにかかわって大切にしたい内容のうち、気付きの質を高める学習指導の進め方をポイントとして次に示します。

Point 1

言葉で振り返り、表現する機会の設定

活動したことや体験したことを言葉などによって振り返ることで、無自覚だった気付きが自分の中で明確になったり、それぞれの気付きを共有し、それぞれの気付きを関連付けたりすることが可能になります。例えば、「ぶどうみたいな実を見つけたよ」「みかんのようなおいがしたよ」など、諸感覚を生かした豊かな体験をすることで、体験したことをこれまでの体験につなげて表現することが考えられます。また、教師の働きかけや言葉かけにより、児童の気付きが質的に高まり、考えを言葉で表現するようにもなります。例えば、雲を見つめながら「白くてふわふわだったよ」とつぶやいたとき、教師が「何みたいかな」と投げかけることによって「綿菓子みたい」「うさぎさんのように」などと表現することが考えられます。

Point 2

伝え合い、交流する場の工夫

互いに伝え合い、交流する活動は、気付きを集団で共有するだけでなく、一人一人の気付きを質的に高めていくことにつながります。例えば、「友達が調べているあのお店の人、早起きして頑張っているな」と発表を聞いて考え、「私が調べているお店の人は、他にどんなことを頑張っているのかな」と次の活動意欲へとつながっていくように、体験したことや調べたことを伝え合う中で、他者の発表内容と比較し考えを持ち、新たな活動が始まると考えられます。また、幼児や異学年の児童、地域の人々との交流など、伝えたいことが相手になかなか伝わらない状況では、相手の反応から何が足りないかに気付き、次の活動が明確になるなど、児童の学習を促進させることが考えられます。

Point 3

試行錯誤や繰り返す活動の設定

試行錯誤して何度も挑戦したり、繰り返し自然とかかわったりすることが気付きの質を高めることにつながります。例えば、ドングリごまの大きさや形、軸の立て方、回し方などを何度も試し、作り直す過程で質的に高い新たな気付きが生まれると考えられます。また、異なる野菜の世話を毎日繰り返すうちに「ミニトマトもナスも、花が咲いたところに実がなります」「別の野菜もみな同じでした」「つるが伸びるのはキュウリだけです」と植物の斉一性や多様性に気付くことが考えられます。



2

授業づくりのポイントを踏まえた学習指導の実際

◆単元名「いっしょに あそぼうよ」

Point 1

Point 2

を生かした授業

1

実践のねらい

平成20年告示の小学校学習指導要領では、気付きの明確化と気付きの質を高める学習活動の充実についての改善が求められています。ここでは、第1学年の実践事例を紹介し、前述の、**Point 1** **Point 2** を生かした授業例を紹介します。

本実践では、幼稚園との交流を中心に単元を構想し、そのときの活動や体験を振り返って新聞作りに取り組む活動を通して、気付きの質を高める学習指導を進めました。

2




学習指導の実際

1 本単元で期待される児童の姿



対象	関心・意欲・態度	思考・表現	気付き
人	幼稚園児や友達との活動を楽しみ、進んでかかわっていきこうとする。	幼稚園児に喜んでもらうためにはどう表せばよいか考え、計画・準備をする。	幼稚園児や友達と共に活動するよさや楽しさに気付く。
遊び	幼稚園の遊具やおもちゃ、自分たちで作ったおもちゃなどで楽しんで遊ぼうとする。	どうしたらみんなが楽しめるおもちゃやお店ができるかを工夫しながら作る。	遊びを工夫することで、みんながより楽しめるようになることに気付く。
自分	自分の活動を進んで振り返り、今後の学習に生かしていこうとする。	幼稚園児とのかかわりで、自分が頑張ったこと、思ったこと、気付いたことなどを表す。	自分のしたことが幼稚園児の喜びにつながることに気付く、自分のよさや頑張り、成長に気付く。

2 気付きの質を高める単元指導計画（全18単位時間）

次	児童の主な活動と思いや願い、気付き	教師の主な支援
第一次 幼稚園に行こう	第1時 幼稚園に行く計画を立てる。 ・小学校では、上の学年の人にいろいろしてもらっているな。 ・自分たちは、幼稚園に行って幼稚園児を喜ばせてあげたい。	・入学したころ、上級生にしてもらったことを想起させることで、幼稚園児に何かしてあげたいという思いや願いにつなげる。
	第2・3時 幼稚園に行く準備をする。 ・小学校のことを教えてあげられるものを持って行こう。(手紙, 新聞, 押し花, 写真, 絵) ・どんなことを教えてあげようか。(生き物, 部屋, 先生, 勉強) ・どんなことをして一緒に遊ぼうか。 ・幼稚園児が喜んでくれるといいな。	・小学校のことを教える活動が、入学してからの学校生活を振り返る表現活動や気付きを質的に高める活動になることを意識して支援に当たる。(声かけ, 表現方法の紹介, 準備物)
	第4・5時 幼稚園に行き、幼稚園児と遊ぶ。 ・幼稚園は久しぶりだな。変わったこともあるな。 ・自分が行った園とは〇〇が違うな。	・幼稚園に行きつづけてしばらくは、幼稚園のもので遊ぶ児童が多いと思われるので、この機会を見て、幼稚園児と遊ぶことがで

<p>第一次 幼稚園 に行こう</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園児は喜んでくれているかな。 ・幼稚園児と遊ぶのは楽しいな。 <p>第6・7時 幼稚園訪問についてまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園で遊んだのが楽しかったな。 ・幼稚園児は喜んでくれたかな。 ・幼稚園児と遊んだことを新聞にまとめよう。 ・新聞を他の学年の人にも見てもらいたいな。 	<p>きているかどうか声かけをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園児と遊んでいる児童の写真を紹介し、自分が幼稚園児を喜ばせることができたかどうか、振り返る視点を与える。 ・活動を振り返りやすくするために、グループごとに主な活動の写真を用意する。
	<p>Point 1 活動したことや体験したことを言葉などによって振り返っています。無自覚だった気付きが明確になっていく場面です。</p>  <p>第8時 まとめたことを発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園児もいろんなことができるんだな。 ・自分や友達にもあんなときがあったんだな。 ・また幼稚園児と遊びたいな。 <p>Point 2 伝え合い、交流する活動により、気付きの共有とともに、自分や友達の成長に気付くことができます。この場面は、一人一人の気付きの質を高めています。</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・発表の中で出てきたよい気付きを取り上げることで、幼稚園児への気付きだけでなく、自分や友達の成長に気付いていけるようにする。
<p>第二次 幼稚園児 を招待し よう</p>	<p>第1時 幼稚園児を招待する計画を立てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今度は幼稚園児を学校に呼びたいな。 ・自分たちの作ったお店で遊んでもらいたい。 ・幼稚園児を招待する計画を立てよう。 <p>第2～5時 幼稚園児を招待する準備をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園児が楽しめるお店を作ろう。 ・早く幼稚園児を呼びたいな。 ・自分も友達も頑張っているな。 <p>第6・7時 幼稚園児を招待して一緒に遊ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・楽しそうに遊んでくれているよ。 ・楽しんでもらえると、自分もうれしくなるよ。 ・来年入学してくるのが楽しみだな。 <p>第8・9時 幼稚園児を招待したことをまとめる。 (本時)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・楽しかった思い出を新聞にしよう。 ・他の学年の人にも紹介したいな。 ・自分も友達も頑張ったな。 <p>第10時 まとめたことを発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・〇〇さんはよいことに気付いたね。 ・またこんな活動ができたらいいな。 	<ul style="list-style-type: none"> ・第一次の活動をしっかり想起させてから、幼稚園児とまた遊びたい、今度は小学校に招待したいという思いや願いを持つことができるようにする。 ・幼稚園児に喜んでもらうにはどうしたらよいか、第一次での気付きを基に考えられるようにする。 ・他教科等と関連を持たせて計画を進める。 ・当日までの頑張りを称揚し、自分や友達のよさや成長に気付くことができるようにする。 ・一人一人の思いや願い、気付きを引き出すため、また、レイアウトしやすくするため、各自に用紙を配り、それに書いてから台紙にはるようにさせる。 ・一人一人の思いや願い、気付きを受け止め、本単元の学習をしてよかったと思えるような声かけをしてまとめる。
	<p>Point 2 友達の発表内容と比較し考えを持つことが、次からの活動を豊かなものにしていきます。</p> 	

3 本時案（第二次第8・9時）

目標	幼稚園児をお店に招待したときのことを振り返り、活動したことや思ったこと、気付いたことなどを絵や文で表して、新聞にまとめることができる。	
学習活動と児童の思い・願い・気付き		教師の支援
<p>1 幼稚園児をお店に招待したときのことを振り返り、目当てをつかむ。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園児にお店を楽しんでもらってよかったな。 ・幼稚園に訪問したときは、幼稚園児と余り話ができなかったけど、今回はしっかり話ができよかったな。 ・頑張って準備してよかった。 </div>	<p>○幼稚園児を招待したときのことを想起しやすくするために、そのときの写真を提示する。</p> <p>○それぞれのお店の様子はどうだったか、幼稚園児の様子はどうだったか、どんなことに気付いたか、どんなことを思ったかなど自由に発言させたことを板書し、新聞作りに生かすことができるようにする。</p> <div style="text-align: right;">  </div>	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 0 auto; width: fit-content;"> <p>ようちえんの人をおみせにまねいたときのことをしんぶんにして、いろいろな人にみてもらおう。</p> </div>		
<p>2 お店のグループごとに新聞を作る。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・自分は〇〇のことを新聞に載せたいな。 ・どの写真を使おうかな。 ・お店で遊んでいたとき、幼稚園児はどんな様子だったかな。 ・作っているうちに気付いたことがあるよ。 ・友達も頑張って作っているな。 ・他のグループの新聞も見て参考にしよう。 </div>	<p>○一人一人の思いや願い、気付きを引き出すため、また、レイアウトをしやすいするため、各自に色別のカードを配り、それに書いてから台紙にはるよう指示する。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> <p>ピンク…「きづいたよカード」 黄色…「たのしかったよカード」 水色…「がんばったよカード」 白…「フリーカード（無地、けい線入り）」</p> </div> <p>○作成に当たり次の点を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習活動1で出たことや自分たちが気付いたことなどを入れて作る。 ・絵や文などを分担して、内容がなるべく重ならないようにする。 ・写真を切って使ってもよいこととする。 	
<div style="border: 2px solid black; padding: 10px; margin: 0 auto; width: fit-content;"> <div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="background-color: #e91e63; color: white; padding: 2px 5px; font-weight: bold; margin-right: 5px;">Point 1</div> <div> <p>活動したことや体験したことを、新聞作りで表現し振り返ることで、無自覚だった気付きが自分の中で明確になっていきます。</p> <p>また、協同した活動は、言葉などによる交流が活発になり、気付きを共有することだけでなく、それぞれの気付きを関連付けた、より確かな気付きとなっていきます。</p> </div> </div> </div>		
<p>3 本時を振り返り、次時の学習への見通しを持つ。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・よい新聞ができてよかった。 ・早く新聞に書いたことを発表したいな。 ・他のグループの発表を聞くのが楽しみだな。 </div>	<p>○出来上がった新聞のよいところを称揚し、自分や友達の頑張りがよさを実感できるようにする。</p> <p>○一人一人の思いや願い、気付きを受け止め、次時の発表への意欲につながるような声かけをする。</p> <div style="text-align: right;">  </div>	

1 本時の授業の様子

新聞作りは1学期から数回行っており、児童は身に付けた表現方法を生かしながら、お店グループごとに絵や文、写真を使って新聞を作っていました(図)。それまで無地のカードを配っていましたが、色別カード(※本時案参照)を選んで書くようにしたところ、単に活動したことを表現するだけでなく、互いの気付きや自分たちの頑張りに目を向けることができました。

各自が表現したものを、1枚の新聞にまとめていく活動の中で、同じお店グループの友達が気付いたことに目を向けることができました。

新聞に書かれた児童の気付き

- ・「みんながあんなにあそぶなんておもわなかったよ。みんながあんなにできるなんておもわなかったよ。」
- ・「くるひもがなくなったけど、じぶんたちでかいけつして、そのじけんをのりこえたじぶんたちがすごいとおもった。」
- ・「いそがしいけど、みんなでちからをあわせてがんばったよ。たのしかったよ。」
- ・「プレゼントをもらったら、うれしそうにちがうみせにいました。わたしはうれしいなとおもいました。」



図 新聞作りをする児童

2 実践を終えて

異年齢集団とのかかわりは、同年齢集団とのかかわりとは違う学びがあります。第1学年の児童は、小学校に入るとしてもらうことが多く、受け身になりがちなので、自分たちが積極的にかかわれる幼稚園児との交流を大切にしたいと考えました。1学期に幼稚園へ訪問したときは、幼稚園児に声をかけることができなかった児童が、自分たちの作ったお店に招待したときには、お店で楽しんでもらおうと、呼び込みをしたり、誘ったり、分かりやすく説明したりしていました。ほとんどの児童が自分の力を発揮して、幼稚園児に楽しんでもらおうと頑張っていたと思います。今後も充実した活動や体験がより質の高い気付きにつながるよう工夫していきたいと考えています。

第1学年の児童にとって、共同作業である新聞作りは難しいと思いましたが、個々にカードを用意して書かせるようにすれば、生活科カードと同じように扱えると考えました。入学当初は白色無地のカードを配りましたが、気付きの質を高めるためには、カードの種類に多様性を持たせる工夫が必要であると感じ、本時から4種類のカードを使用しました。児童の実態や成長に合わせて、カードも変えていくと、より質の高い気付きを引き出すことができると思います。また、グルーピングや新聞にする台紙の大きさ、カードの枚数なども、振り返る活動や内容に合わせたものにしていく必要があると感じました。

新聞を作ることで気付きはある程度高まりますが、更に気付きの質を高めるためには、作る前に活動を思い出す時間を取ること、作った新聞を基に発表したり話し合ったりする活動を取り入れることが大切だと思いました。

実践者からのコメント

気付きの質を高める上で、他教科との関連の重要性が指摘されていますが、生活科の他単元との関連も重要になると考えられます。今回の幼稚園との交流は、校内での第2学年や第6学年との交流での気付きから、思いや願いを高めていきました。また、おもちゃ作りの単元と関連付けて、自分たちが作ったお店に招待することで、相手意識、目的意識を高めることができました。活動ごとに高まっていく気付きを、その活動だけで終わらせるのではなく、更に広げていく工夫をしていくことが大切になるのではないかと思います。

3 これからの方向性

各学校においては、学習指導要領の改訂の要点について十分理解し、趣旨を生かした授業づくりが求められています。

そこで、これからの小学校生活科の授業において、課題となるポイントを次に示します。

幼児教育との接続

生活科を中心とした合科的な指導

幼児教育との接続の観点から、幼児と触れ合うなどの交流活動や他教科等との関連を図る指導は、今後も引き続き重要です。各学校では、幼児教育との接続の観点から、指導計画の整備や交流活動の計画、指導者同士の連携研修などを行うことが必要です。

さらに、第1学年当初の児童が学校生活へ適応できるよう、合科的な指導を行うことなどの工夫により、カリキュラムをスタートカリキュラムとして改善することが望まれています。



スタートカリキュラムは、大単元から徐々に各教科に分化していきます。つまり、児童が自らの思いや願いの実現に向けた活動を、ゆったりとした時間の中で進めていくことが可能となるのです。このことにより、小1プロブレムなどの問題を解決し、学校生活への適応を進めることになるものと期待されています。

動植物とのかかわり

生命に関する教育の充実

生命の尊さを実感する体験が少なくなっている現状を踏まえ、生命に関する教育については、一時的、単発的な動植物とのかかわりにとどまるのではなく、例えば、季節を越えた飼育活動で成長を見守ることや開花や結実までの一連の栽培活動が行われることなど継続的な飼育・栽培が望まれています。継続的な活動を通してこそ、生命の尊さを実感できるものです。



自然の不思議さ・面白さ

自然の不思議さや面白さを実感する指導の充実

従前では、遊びの場づくりが中心であった内容(6)「自然や物を使った遊び」ですが、今回の改訂で、遊びや遊びに使う物を工夫して作ることで、児童が遊びの面白さとともに、自然の不思議さにも気付くことができるようにすることが強調されています。

内容(6)で特に気を付けたいことは、平成20年1月の中央教育審議会の答申に示された「科学的な見方・考え方の基礎」についての理解を誤り、ややもするとかつての低学年理科のような指導をしてしまうことです。低学年理科は、教えた原理があるので素材や活動が限定的でした。しかし、生活科は、子どもたちの思いや願いを大切にしようとしているので、期待する子どもたちの姿や素材、活動が多様になるはずです。

内容(6)は、生活科において経験を豊かにすることにより、第3学年以降の理科が充実すると考えて構成されています。